シリーズ 第45回

# 学校日誌からみた銃後の生活

昨年、香北小学校より古い学校日誌が博物館へ寄贈されました。学校日誌は、校内や地域の主な行事や児童数、教職員の動向を簡潔に記録したものですが、一つ一つをつなげていくことで、歴史の流れの中での当時の地域の動きがよくわかります。

今回は、昭和の激動の時期、第二次世界大戦の戦況が悪化してゆく昭和十九年度と、敗戦を迎える二〇年度の香北国民学校の日誌から戦時下の村の様子をみていきたいと思います。

香北国民学校の学校日誌

戦争が激化する中、香々美北村からも多くの男性が戦地に出征しました。出征の際には児童達も見送りを行い、十九年度から二〇年度にかけて二〇回以上の見送りが行われています。

そして昭和十九年六月十五日にアメリカのB―29による本土空襲が始まったことを受けてか、七月八日には警戒警報・空襲警報・空襲警報解除のサイレン吹き鳴らし試験が行われ、八月十一日に最初の空襲警報が発令されました。

空襲が本格化すると、都市部の児童は空襲被害の少ない農村部への疎開を行いはじめます。香北国民学校でも、十九年度初めの児童数は、初等科・高等科合わせて一七三名でしたが、年度末には一八六名に増え、二〇年度一学期終了時の二一二名をピークに、二学期以降は減少し二〇年度末は一九二名になっています。こうした児童数の推移からみても、親類を頼っての縁故疎開が多くあったことが推察できます。

また、食料不足を補う目的なのか、学校行事としてたびたびワラビ・フキの採集やイナゴ捕り、山芋掘りなどを実施しています。さらに高学年の児童たちは、学校行事の中で木材・木炭・杉皮・カヤの運搬作業や稲刈り、サツマイモ貯蔵作業、桑の植え付け、三椏の本晒し、松根油工場での作業などを行っています。六月前半は養蚕勤労休校、後半は農繁勤労休校で、学校では授業がほとんど行われていません。児童達も村の作業や家業の手伝いに勤めていたことがわかります。

積雪量と空襲警報発令の記録

終戦の日の記録

教職員の出張も、なぎなた講習会や開拓義勇軍打合せ会、そして校長は村内の戦死者の弔問にたびたび出席するなど、時代を反映しています。

八月十五日の終戦の日は、夏休みですので行事はありませんが、「ポツダム宣言受諾」とのみ書かれています。翌月は枕崎台風による被害のため三日間休校となりました。

一〇月二十七日には、神戸市から津山市などに集団疎開し、終戦後も残っていた荒田国民学校の児童が来校し、香北の児童が持参した野菜を持ち帰ったことも記録されています。

こうしてみると、現在の学校とは全く違ったようにも見えますが、五月には家庭訪問、二月には学芸会が行われるなど、現在でも続く行事も当時から行われています。

学校日誌は簡潔な記録とはいえ、その当時に書かれたリアルな記録ですので、長い年月が経過すると、当時の地域の様子や国内の世相も垣間見ることができる大変貴重な歴史資料です。

参考資料：「学校日誌」香北国民学校 昭和十九・二〇年度

生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

2014年2月号　第108号　毎月1日発行
〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/